



令和2年10月9日(金)

国土交通省 関東地方整備局
常陸河川国道事務所
久慈川緊急治水対策河川事務所
国土地理院関東地方測量部

記者発表資料

**令和元年東日本台風から1年、
久慈川・那珂川流域の自然災害伝承碑8基を公開**
～地域防災力の向上を目指した水害記録の伝承を進めています～
(久慈川・那珂川緊急治水対策プロジェクト関連)

令和元年東日本台風において甚大な被害が発生した久慈川及び那珂川では、昨年の台風被害から1年を迎えるにあたり、流域に残る水害や水害対策の記録等を掘り起こし、後世に伝承することで地域防災力の向上を図る取組を進めています。

このたび、久慈川・那珂川流域の水害に関する自然災害伝承碑※（4市町8基）を国土地理院のウェブ地図「地理院地図」に本日から公開しました。

今回の自然災害伝承碑の情報の公開に向けては関東地方整備局及び国土地理院と久慈川・那珂川流域の4市町の協働で作業を進めてまいりました。この取組の関東地方整備局と国土地理院との共同での報道発表は初めてとなります。

(<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>)

※自然災害伝承碑：過去に起きた津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然災害の情報を伝える石碑やモニュメント

発表記者クラブ

茨城県政記者クラブ、栃木県政記者クラブ
竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会

問い合わせ先

<那珂川緊急治水対策プロジェクト関連>

常陸河川国道事務所 副所長(河川) 堀内輝亮

TEL : 029-240-4061 (代表) FAX : 029-240-4081

<久慈川緊急治水対策プロジェクト関連>

久慈川緊急治水対策河川事務所 総括地域防災調整官 松浦英昭

TEL : 0294-72-1152 (代表) FAX : 0294-72-1154

<自然災害伝承碑の公開関連>

〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-1-15 九段第二合同庁舎9階

国土交通省国土地理院関東地方測量部 防災課長 住谷勝樹

TEL : 03-5213-2071 (直通) FAX : 03-5213-2077

《発表資料のポイント》

昨年の令和元年東日本台風において甚大な被害が発生した久慈川、那珂川流域では、今年の1月に地域と連携して治水対策を進める久慈川・那珂川緊急治水対策プロジェクト※をとりまとめ、プロジェクトを進めているところです。

久慈川・那珂川緊急治水対策プロジェクトでは、「減災に向けた更なる取組の推進」として、「水害記録の伝承」を進めていくこととしており、今回の申請・公開は、この取組の一環となります。

※久慈川・那珂川緊急治水対策プロジェクトの詳細な情報につきましては、以下のウェブサイトをご覧ください。

久慈川・那珂川 緊急治水対策プロジェクト <https://www.ktr.mlit.go.jp/hitachi/hitachi00814.html>

公開した自然災害伝承碑の一つである久慈川流域の太子町の「可恐(おそるべし)」の碑は、明治23年の大洪水を伝えるもので、昨年の台風でも石碑周辺が浸水するなど、繰り返される自然災害の恐さを伝えており、地域住民の防災意識の向上につなげることが重要なものと改めて認識されています。

また、久慈川流域の自然災害伝承碑の公開は初となります。(茨城県の県北地域での公開も初となります)

これら伝承碑の情報を誰もが見ることができる地理院地図へ掲載することにより、過去の自然災害の教訓を地域の方々に分かりやすく伝えることで、教訓を踏まえた的確な防災行動につなげ、自然災害による被害を軽減することを目指します。

自然災害伝承碑の掲載は、全国の市区町村と連携して整備を進めています。国土地理院では、今後も全国の市区町村に情報提供を引き続き呼びかけ、自然災害伝承碑の情報を定期的に更新し、公開していきます。

※自然災害伝承碑の詳細な情報につきましては、以下のウェブサイトをご覧ください。

「自然災害伝承碑」の取組 <https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>

【添付資料】

資料1 「自然災害伝承碑の地図化を通じた災害教訓の周知・普及」の取組み

資料2 久慈川・那珂川流域の市町から今回申請のあった石碑一覧

資料3 今回公開した「自然災害伝承碑」代表事例

資料4 動画「過去の災害を伝える「自然災害伝承碑」8基の新規公開」

参考資料1 久慈川・那珂川緊急治水対策プロジェクトの水害記録の伝承<抜粋>

「自然災害伝承碑の地図化を通じた 国土地理院 災害教訓の周知・普及」の取組

資料1

西日本豪雨災害から学ぶ教訓

教訓：自然災害伝承碑の教訓伝承の重要性

広島県坂町小屋浦地区には、明治40（1907）年に土砂災害があった旨の石碑が設置されています。しかし、平成30（2018）年の西日本豪雨災害では過去の教訓が生かされず、小屋浦地区では避難勧告が出されて2時間後までの避難率はわずか1.9%しかありませんでした。

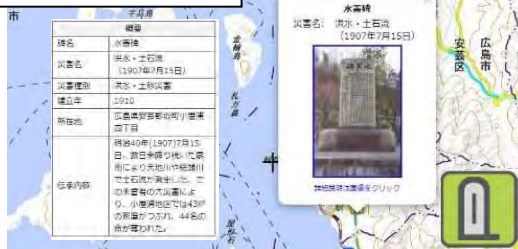


大阪府警察提供

取組目的

国土地理院では、令和元年度から災害教訓の伝承に関する地図・測量分野からの貢献として、過去の自然災害に関する石碑やモニュメントなど「自然災害伝承碑」を地形図等に掲載していきます。これにより、過去の自然災害の教訓を地域の方々に適切にお伝えするとともに、教訓を踏まえた的確な防災行動による被害の軽減を目指します。

地理院地図における表示イメージ



2万5千分1地形図における表示イメージ

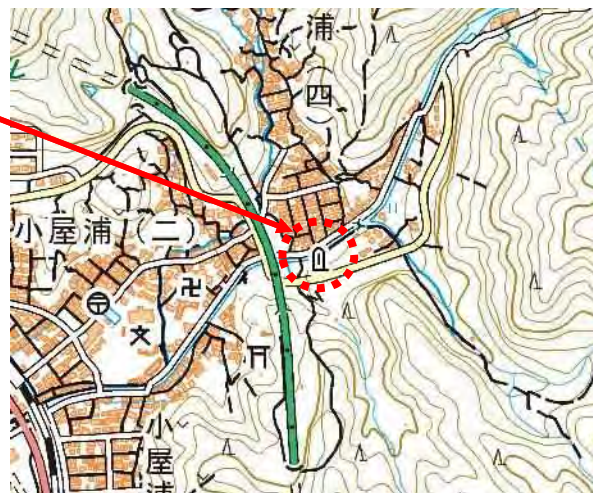


「自然災害伝承碑」とは？

- ◆ 過去に発生した津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然災害に係る事柄（災害の様相や被害の状況など）が記載されている石碑やモニュメント。
- ◆ これら自然災害伝承碑は、当時の被災状況を伝えると同時に、当時の被災場所に建てられていることが多く、それらを地図を通じて伝えることは、地域住民による防災意識の向上に役立つものと期待されます。



自然災害伝承碑
(水害碑：広島県坂町)



新たに制定した地図記号「自然災害伝承碑」を地図に掲載し、かつて自然災害が発生した地域であることを示します。

※画像はイメージです。

表示イメージ

国土地理院では、令和元年6月から「地理院地図」において、全国各地に建立されている自然災害伝承碑に関する情報（位置や伝承内容など）を公開しています。



概要	
碑名	決壊の跡
災害名	平成27年9月関東・東北豪雨 (2015年9月10日)
災害種別	洪水
建立年	2017
所在地	茨城県常総市三坂町
伝承内容	平成27年(2015)9月10日、関東地方から東北地方にかけて多数の線状降水帯が次々と発生し、鬼怒川で堤防が決壊した。市域の約3分の1が浸水、決壊地点では建物が流失し、浸水が解消するまでに10日間を要した。

ID:08211-001

活用イメージ

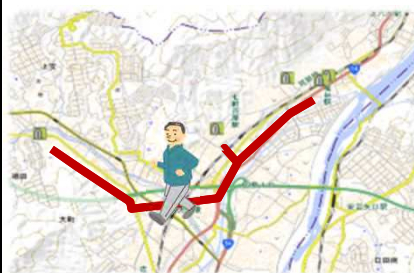
学校における学習教材



身近な災害履歴を学ぶための学習教材として、小中学校で活用いただく。

地理教育や防災教育への貢献

地域探訪の目標物



歩こう会などの探訪コースを設定する際の目標物とすることで、参加者が地域を歩きながら自然と過去の災害情報に触れる機会を創出する。

防災に対する関心を高めるきっかけ

防災地図の素材



自然災害伝承碑の情報などを素材とした防災地図を、児童生徒が現地調査を交えながら作成する。

児童生徒やそのまわりの大人の防災意識向上

久慈川・那珂川流域の市町から今回申請のあった石碑一覧

流域	市町村名		伝承碑数	碑名	伝承されている災害	備考
那珂川	茨城県	水戸市	3	洪水記念	昭和13年洪水（1938年）	令和元年登録済の「洪水記念碑（昭和13年洪水）」に加え今回3基の追加公開
	茨城県			戊寅水難之碑	昭和13年洪水（1938年）	
	茨城県			洪水記念	昭和13年洪水（1938年）	
茨城県	常陸大宮市	1	築堤記念碑	洪水（1938年、1941年）		
茨城県	常陸太田市	1	久慈川改修記念碑	洪水（1786年）ほか		
久慈川	茨城県	太子町	3	明治二十三年洪水被害記念碑	洪水（1890年）	
	茨城県			可恐（おそるべし）	洪水（1890年）	
	茨城県			可恐（おそるべし）	洪水（1890年）	
計		8				

※「自然災害伝承碑」の公開数は、47都道府県186市区町村606基（茨城県内では7市町18基）となります。



③可恐(おそるべし) (茨城県大子町)



明治23年(1890)8月7日、久慈川は未曾有の大洪水に見舞われ、河川の水位は平時と比べて約6m増水した。この地域では、田畑約3haが流された。旧大子村の被害は溺死者4名、流失家屋13棟、浸水家屋250戸余を数え、町家の大半が浸水した。碑は建立時より高い位置に移設されている。

④築堤記念碑 (茨城県常陸大宮市)



昭和13年(1938)9月1日と昭和16年(1941)7月22日の豪雨では、天明年間以来の大洪水が発生した。水位は8mに及び、野口地区は濁流に襲われ、耕地は20haが流され、家屋は約30棟が浸水し、被災者は約200名に及んだ。

⑤久慈川改修記念碑 (茨城県常陸太田市)



久慈川では明治以降昭和20年代まで34回もの大洪水や風水害の記録がある。豪雨に襲われると河川は幾度も氾濫、山崩れを誘発し、あるいは堤防を決壊して、たびたび人命を奪った。碑には天明6年(1786)以降、アイオン台風(昭和23年(1948))に至る洪水被害の歴史とともに、河川改修整備の経過が記されている。

⑥洪水記念 (茨城県水戸市)



昭和13年(1938)は那珂川の氾濫により3ヶ月の間に3回の洪水が発生し、県下では崖や道路の崩落、橋や家屋の流失、耕地の埋没などの大被害が発生し、この村も大きな被害を被った。特に9月1日の氾濫では上流側の栃木県の降水量が多かったため濁流となり、流域各地は泥海となった。天災は逃れる事はできないが、人の力が及ぶ範囲は努力しなければならない。

令和元年登録

今回公開した自然災害伝承碑8基
について動画で紹介します。



令和2年10月9日

過去の災害を伝える「自然災害伝承碑」8基の新規公開

— 令和元年東日本台風から1年の取組 —

関東地方測量部

久慈川緊急治水対策河川事務所

常陸河川国道事務所



国土交通省
国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan



久慈川緊急治水対策河川事務所

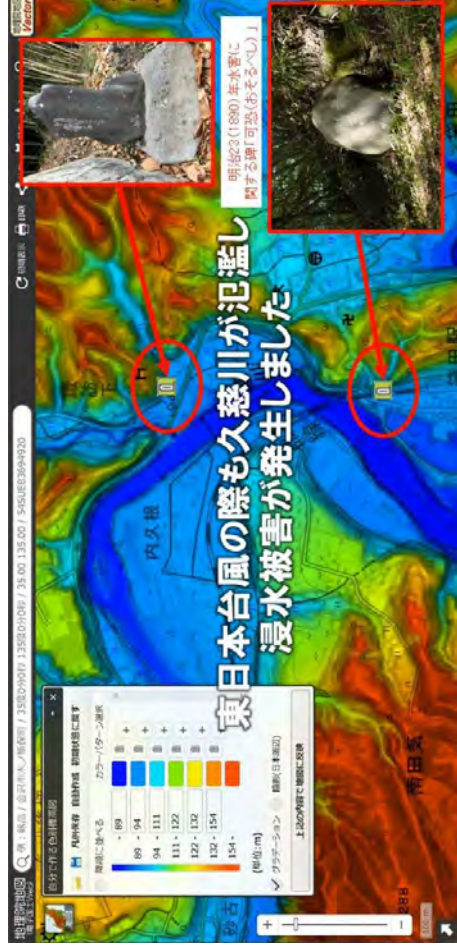
常陸河川国道事務所



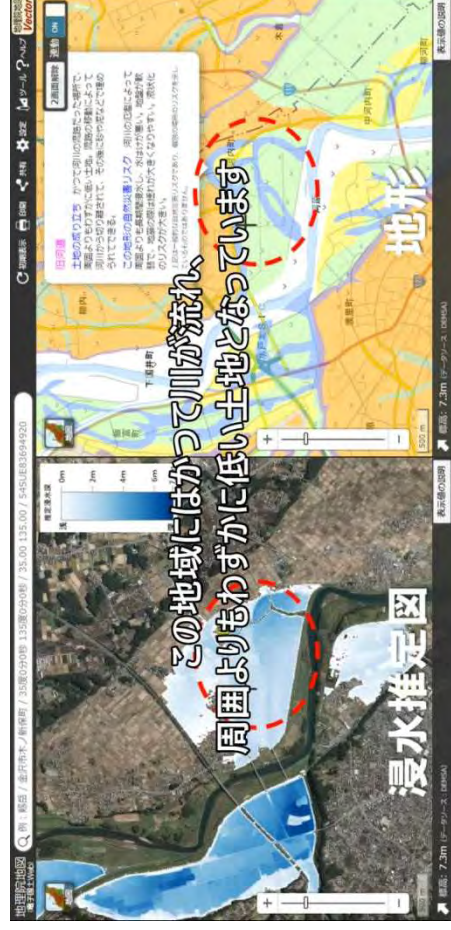
「地理院地図」での「自然災害伝承碑」等の
閲覧方法を簡単に紹介しています。



東日本台風の際、今回公開した碑の地点や
近傍で再び水害が発生しました。



東日本台風で浸水した地域と地形との
関係も紹介しております。



令和元年台風第19号を踏まえた 「久慈川緊急治水対策プロジェクト」

～地域が連携し、多重防御治水により、社会経済被害の最小化を目指す～

【主な取組項目の概要】



日立市、常陸太田市、常陸大宮市、那珂市、東海村、大子町

茨城県

気象庁 水戸地方気象台
常陸河川国道事務所



令和2年1月31日

関係機関が連携した水害に対する事前準備のための取組（水害記録の伝承）

○事前準備のための取組として、地域防災力の向上を図るため、水害記録の伝承等を進めていきます。

今後の対策の方向性と内容

流域に残る水害の記録や遺構を掘り起こし、その教訓などを後生に伝承することにより、地域防災力の向上を図ります。

「おそるべし可恐の碑」は茨城県久慈郡大子町の盆地に保存されている。久慈川は洪水頻度が高く、宝永元年（1704）をはじめとして、大正9年、昭和13年、同16年、同22年、同36年、同57年、同61年、平成3年、同10年、同11年、同14年において洪水が記録されている。これらの記録とは別に、大子町の久野瀬諏訪神社下とJR水郡線の袋田駅北の踏切近くにそれぞれ「可恐の碑」が置かれている。それらの碑は、明治23年8月7日の洪水を記録しているもので、前者には「洪水時には碑の場所まで浸水し、平水時より増水すること約6m」と記され、後者には「洪水は未曾有のものであり、周辺の耕地は流亡し、平水時より約6.7m増水」と記されている。



▲「可恐の碑」（久野瀬諏訪神社下）



▲「可恐の碑」（R水郡線の袋田駅北の踏切近く）



▲地域へのフィードバック
久慈川豪雨災害パネル展（常陸太田市）